

カナダ・トロント大学／医療指導者養成コース(INTAPT)に参加して

長崎みなとメディカルセンター市民病院 ド・ケルコフ麻衣子

INTAPT コースとは:カナダのトロント大学で、家庭地域医療学の権威でおられるヘレン・バティ教授が主催する医療従事者のための医療指導者養成コース。



トロント大学 (The University of Toronto)

- ・創立は 1827 年と古く、インスリン発見、ペースメーカー開発、フィールズ賞提唱、歴代首相、ノーベル賞受賞者を多数輩出しているカナダの最高学府。
- ・学生数 6 万人、学部 300 以上と大規模大学で市内中心部に位置し、歴史的建造物が多いことから映画のロケ地、観光名所の一つとなっている。



ヘレン・バティ教授

- ・トロント大学医学部卒業、(現)家庭地域医療学教授、家庭医として外来診療も行っている。
- ・研究領域は医療者の臨床教育であり北米の家庭医学会の重鎮である。
- ・INTAPTコースを開設して7年目である。
- ・医学部入学当時(60年代)女性の社会進出はまだ厳しく、医学部には女子学生がわずか15%しかおらず、女性立ち入り禁止の建物もあったそう。

コース概要:

(期間)

10月から3月までの1学期、家庭地域医療学大学院修士課程の必須講座。

(受講者)

約30名。学生の7割は医師で修士大学院生。他に歯科医師、看護師、栄養士、リハビリ療法士など多職種の修士学生が在籍。国籍も、日本、サウジアラビア、インド、エチオピアなど多国籍であった。

(概要)

10月に現地で1週間の集中講義を受講し、その後は自己学習とグループ学習でオンラインによる課題提出とワークショップの準備を行い、3月に現地で講義と各自ポスター発表、各グループのワークショップ発表を行う。最終課題としてポートフォリオと論文を提出し総合判定される。

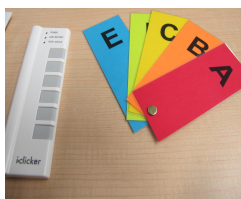
受講までの経緯:

私は昨年4月に長崎みなとメディカルセンター市民病院に赴任、教育研修センター長を拝命いたしました。これまでも研修医やメディカルスタッフに講義したり指導したりしていましたが、研修医教育を全体的に取りまとめる、カリキュラムを考えるなどといった経験がなかったため、このような機会に恵まれたことはとても幸運でした。

実は私自身、ひと昔前にトロント大学を卒業しており(理学士、長崎大学医学部へ学士編入)、これも何かの縁だと思い応募させていただきました。

学ばせていただいたこと:

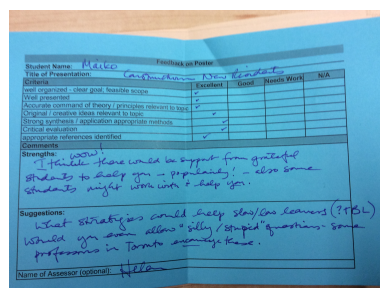
INTAPT コースでは、First week(10月)に成人教育論と教育理論についての集中講義がありました。1週間と短期間ではありましたが、朝8時から午後5時までびっしりでした。



授業は、クリックャー(オーディオレスポンスシステム)やカード、画用紙など多様な教材を用い、常に学習者(私たち)が飽きないような、楽しく自分たちで考えさせるという教育がなされていました。日本と違ってとにかく自分の意見をまわりに伝える、一緒に考えるというグループ学習が当たり前で、さらに“20分で集中力が低下する”というデータをもとに学習者参加型のアクティビティが用意されていたのが印象的でした。

その後、各自で学習契約(Learning Contract)という書式に何を学びたいかを明示し、指導教官から認められた学習契約を基に多量の参考文献をもとに自分の学習計画を立てます。(ここで、自国に戻り、自己学習を開始、オンライン上で課題提出します)

3月の Second week は、めまぐるしくあっという間に過ぎました。
 講義のほかにそれまでの自己学習の成果をポスターにして発表しました。クラスメイトや指導教官から熱心に質問され、それぞれから評価を受けます。(写真下右は評価票)
 みんなからの評価が、決して否定的でなく、どれも前向きなものであることがとても勉強になりましたし、学習者としてさらにやる気ができました。



さらに10月に結成されたグループで、なんと4時間ものワークショップを企画・運営し、クラスメイトに提供し合い、評価し合います。



私のグループはカリキュラムデザイン(教育プログラムの立て方)のワークショップを企画しました。

メンバーは、放射線科医師のレイチェル(写真左)、資格栄養士のアニー(写真右)、歯科医師のダビータと私の4人でした。

3月までに何度も、海と時差を越えたネットミーティング(日本-カナダ)を行い、それぞれが勉強し、お互いの学習進路状況を確認し、発表前にはメンバーの家にこもってリハーサルをしました。おかげで無事に評価 A と判定され、みんなで喜びを分かち合いました。

総じて、INTAPT では期待以上に多くのことを学ばせていただきました。
 その中でも、成人教育理論に裏付けされた学習方法を基礎から楽しく学ばせていただいたこと、そしてグループ学習の有効性、個人学習より広く深く学べるということを実践・実感できたことが最大の成果だと思います。今後はこれらのエッセンスを当院の研修医教育にも取り入れたいと思っております。

最後に、このような貴重な経験をさせていただきました浜田教授をはじめ、新鳴滝塾の皆様へ厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

<おまけ>



(写真左) バティ教授と修了式にて、この建物は教授が医学生ころ女人禁制だったそう。

(写真中央) 国境、文化を越えて自国の医学教育をよりよいものにしたいという熱意を語り合ったクラスメイトたち。(サウジアラビア、インド、クウェート、カナダ)

(写真右) 教授邸のハロウィーンパーティ。長崎から一緒に参加した門田先生、山下先生と。